

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000788		
法人名	株式会社 アイケア小樽		
事業所名	グループホームアイケアおたる		
所在地	〒047-0017 小樽市若松2丁目1番18号		
自己評価作成日	平成26年3月26日	評価結果市町村受理日	平成26年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念「目配り・気配り・心配り」をモットーに取り組んでおります。又、週2回の訪問看護にて入居者様の体調管理を十分に気をつけ努力しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani%3D%3E&JigvosyoCd=0172000788-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古くからの家並みが残る閑静な住宅地に位置しており、リビングの大きな窓からは、道行く人達や近隣の住宅が臨め、地域での生活が身近に感じられる事業所である。住宅地ではあるが、近くにはJR駅・商店街・国道があり、利便性も良く日常的に買い物や散歩に出かけている。管理者及び職員は、豊かな経験と優しさで利用者を支え、安心・安全なケアを提供し、信頼関係と馴染みの関係の中で共に過ごす日々を大切にしており、家族の信頼も厚い。体操・ゲーム・手芸等、一人ひとりの身体機能に合わせたレクリエーションを日課とし、事業所内でも楽しく過ごせるよう工夫しており、英会話のボランティア訪問は大変好評である。また、町内の夏祭りには、事業所前が御神輿の休憩場所になっており、利用者と子供みこしの交流があり、昔馴染みの場所での暮らしを実感できる活動を、積極的に取り入れている。さらに利用者の日々の行動や支援経過を記録した『介護記録』は、一ヶ月分をコピーし家族に送付しており、利用者が毎日どのように暮らしているか、一目でわかるように配慮している。地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った支援の提供に努めています。	理念『目くばり・気くばり・心くばり』は、目立つところに掲示し、申し送り時には全職員で唱和しケアの実践につなげており、小樽地区アイケアグループのスローガンも事務室に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に加入し、資源回収(2ヶ月ごと)祭典参加、町内会総会に参加し、地域との連携を深めております。	町内会に加入している。若松町会祭典では、事業所の前が御神輿の休憩場所になっており、子供たちと利用者が交流している。英会話のボランティア訪問があり、利用者の参加率も高く好評である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で町内会、地域の方々からの意見を聴かして頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は1回のみ開催出来ず定期的に開催するよう努めます。	運営推進会議では、行事予定の報告や参加者全員で意見交換をし、『腸と乳酸菌』の勉強会を行ったが、今年度は1度しか開催していない。	運営推進会議は定められた年6回開催と、広く意見を伺うためにも、利用者家族の参加を促す工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課等に分からない時には電話などにて相談させて頂いています。	小樽市認知症高齢者グループホーム協議会に参加し、行政方針の理解に努めており、他グループホームとも交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を開催出来ず、定期的に開催するよう努めます。	夜間の数時間以外、玄関は施錠せず、鍵をかけない自由な暮らしを実践している。身体拘束については、拘束委員会を開催し全職員が共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行うよう努めます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加する機会を得ているが、職員は勉強までに至っていない。現在成年後見人を必要とする対象者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭で説明し、疑問点があればいつでも聞いてほしいと伝えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設けている。又、来訪時に意見や要望を常に聞けるようにしている。要望は会議等で共有するようにしている	意見箱を設置している。利用者の日々の状態を詳細に記録した『介護日誌』を家族に送付しており、家族の来訪時には意見要望を聞いている。	利用者家族に、日々の出来事や外出行事等の内容が伝わるように、写真やコメントが入った事業所独自の機関誌の発行を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が日常のコミュニケーションから意見をくみとるようにしている。意見があれば管理者会議の場で提案し意見交換している	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに充実したケアサービスを提供するために、業務の流れに沿った申し送りを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員に十分意見を聞き、職場環境の整備に努めている。資格取得に努め向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの案内等を提案し、職員が積極的に参加しやすいようにしている。職員主体の勉強会を行っていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流はあるものの具体的な取り組みの実践はない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	会話や声掛けの中で、不安や何かしたい事などの希望を聞いたりしており、できるだけ実行できるよう努めております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の現状を電話などで報告したり、来設していただけるよう連絡を取っております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の希望など、入居時に決めたサービスに努めて、状態に応じ改善を行っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を家族と思い、一緒に生活していると思ひ接しております		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の近況など、ご家族様に連絡など密につとめております		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人や親戚など希望があれば、電話などで連絡し、面会していただけるよう努めております	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援し、家族と共に昔馴染みの美容室や外出に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の間に入って会話や集まりなどの良好に努めております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も御本人・ご家族の相談などがあった場合は相談等と対応させて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、御本人が望む事を把握し、安心して生活出来る様努めています	日常の様子や会話から個々の意向や希望の把握に努め、困難な場合は家族に相談し、本人本位の生活が出来るように支援している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族、以前利用していたサービス業者より、情報の提供を受けております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での言葉・行動・健康状態の変化に留意し、対応出来る様にしています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族・必要関係者ときちんと話し合い、情報提供をもらいそれに合った支援計画を作成しています	日頃の関わりの中から得た情報を基に、カンファレンスや情報交換で協議を重ね、本人や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。変化があった場合は、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録を毎日記録し、情報の共有化をし、今後の計画に役立てています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	残存機能を低下させないように、毎日の体操を行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署と連携し避難訓練を年2回実施しています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様・御家族様の希望医の受診支援を行っています	利用者希望のかかりつけ医には、職員が同行し送迎や受診の支援をしている。協力病院医師の訪問診療や、訪問看護師による健康管理がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院に24時間連絡を取れる様になっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者と共に家族と連絡を取り、退院に向けて御本人が不安にならないように、退院御の注意点など話し合い、連携を取っています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、今現在ホームで対応出来る事の説明を御家族にしています	『みとりに関する係る指針』を策定し、関係者全員で方針を確認し共有している。変化があった場合には、医師・看護師・家族と話し合い、全職員が一丸となり支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置・状態変化初期対応について、職員全員が対応出来る様に、周知徹底をはかっています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と協力の元、年2回避難訓練行っています	火災を想定した避難訓練は、年2回消防署の協力のもと、利用者や近隣住民参加で行っている。	台風・地震・津波などの、自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、訓練することで見えてくる、倒れる危険のある家具や電気製品等の洗い出し、さらに飲料水・食料品・非常持ち出し袋等の災害備蓄品の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一日一日の生活に対して、意見や今後の生活の希望や訴え等に耳を傾けています	入浴やトイレ介助の際など、利用者を傷つける事がないように日頃から個人を尊重した言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から体調・意向を観察し、入居者様の希望に沿う様に努め、御本人が決める・納得出来る様、会話を心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中で、どの様に過ごしたら良いのか、一人一人の状態や思いを考え対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に月1回、訪問理美容にて整容等を行い、外出時に要望があれば柔軟に対応させて頂いております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況によって、個別調整し食事を提供・行事や利用者に合わせて、特別食を提供、職員と利用者様と楽しみお祝い等を行っています	利用者の誕生日には、個々の希望に合わせた『祝膳』を提供している。また日本古来の行事や風習に合わせた『行事食』を提供し、季節を感じられる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示により食事を調整、水分もできるだけ摂取できるよう声かけ・品替えし提供をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下機能低下・防止に毎食後、口腔ケア保持に努めています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促すようこまめに、声かけ誘導を行っています	身体的状況や心理的な負担も検討しながら、自尊心に配慮した声かけとさりげない誘導をしている。各トイレは利用者が使いやすいように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に工夫をし、水分を取って頂き、軽い運動を取り入れております		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をおこなっており、入浴・シャワー浴・部分浴・清拭をし、場合によっては2人介助にて対応しております	一人ひとりの希望に合わせた入浴支援をし、リラックスして入浴できるようにしている。また羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、季節に合わせた調整を行い居室で安心して過ごせるよう騒音・雑音の排除を行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の見守り介助、職員間声かけ、誤薬防止に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションを計り、一人一人限りのある生活を過ごして頂いております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に何回かのドライブ(紅葉狩)や買い物、外食に他の入居者様と行き、気分転換や入居者様同志のコミュニケーションをとれる様努めています。車椅子の方が多いため他事業所から車を借りて行っています	ベランダや菜園に出て、お茶を飲みながらの外気浴や、個々の体調や希望に合わせた散歩・買い物・外食などで、外へ出る機会を奨める工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	誕生日プレゼントやお孫さんへのお年玉等、入居者様が希望されたら、本人のお金を使えるようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から家族様に電話をしたい事があれば、電話をして楽しい時を過ごしてもらえるようにしています。月1回ふれあい日誌等で、家族様に報告しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし、きれいにし、不快を招かないように心がけています。冬季は暖かくなりすぎないよう、22℃～23℃になる様気をつけています。季節ごとや行事にあった飾りつけを行い、入居者様に楽しんで頂くよう工夫しています	居間や廊下の共用スペースには、利用者の作品や行事写真などが飾られ、臭い・音・光・温度・湿度に気を配り、整理整頓され清潔で心地良い共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席で一人である時は、職員と昔話をしたり、歌を唄ったりしています。耳が遠い方が多い為、職員が仲をとり持って行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、今まで住んでいた家の思い出の品を持って来られ、なるべく自宅の生活に近い環境作りをして安心して過ごして頂けるよう工夫しております	居室には、自宅で使っていた利用者馴染みの家具や小物を置き、家族写真を飾りそれぞれの雰囲気の中で、居心地良く過ごせるよう配慮・工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の残存能力を活かし、新聞たたみ、洗濯たたみ等リハビリを兼ねて行っています		